

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
共通教育科目	120	1年	前期	看護学科	選択	基礎科学B（化学コース） Basic Science B (Chemistry)	15	1
担当教員								
玉井 博*								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	○ ③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	○ ④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
化学結合、原子量・分子量・モルの概念、溶液の濃度、有機化合物等、高校教科書「化学基礎」「化学」の範囲から厳選された重要事項・理論を学習する。また、演習課題で理解を確実なものにする。								
到達目標（授業目標）								
生物学・化学・物理学を受講する前に、高校までの知識と理解力を確実なものとすることによって、理系科目の学習のための基礎を身に付ける。								
回 授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	物質の構成（1）：元素記号、単体と化合物、人体を構成する元素、有機物と無機物							
2回	物質の構成（2）：原子の構造、同位体、電子配置とイオン化、元素の周期表							
3回	化学結合：イオン結合、共有結合、金属結合、水分子の極性、水素結合、配位結合							
4回	物質質量・溶液の濃度：原子量、分子量、モル、モル濃度、質量・体積の単位							

5回	濃度の計算・溶液の調製：モル濃度・パーセント濃度の計算、密度・比重、溶液（試薬）の調製
6回	有機化合物（1）：有機化合物の特徴と分類、炭化水素の分類、構造異性体、官能基、飽和炭化水素、不飽和炭化水素、石油
7回	有機化合物（2）：アルコールと関連化合物、芳香族化合物
8回	有機化合物（3）：糖類、アミノ酸とタンパク質
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	
成績評価方法及び基準	
演習課題80%、授業に対する取り組み20%で評価する。トータル60点以上を合格とする。	
教科書	佐野博敏、花房昭静 監修「十訂版 スクエア最新図説化学」（第一学習社）
参考図書等	野島高彦「はじめて学ぶ化学」化学同人 立屋敷哲「からだの中の化学」丸善出版
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）	
当日の配布資料や教科書等で復習しながら演習課題を解答し、次の週に提出する。 返却された演習課題について再確認する。	
関連科目	
前科目	
後科目	123 化学
実務家教員	
備考	講義内容がその時間内に理解できるように授業を進めます。毎回授業内容についての演習課題があります。